



←左記のバーコードより当院のホームページを
ご覧になっていただけます

発熱外来にて思う

この前の十二月三十一日と一月二日は医師会からの要請で四條畷市の発熱外来の仕事をしてきました。場所は四條畷市保健センターで一階の大きな部屋にパーティションで区別して臨時の診察室が設置されておりました。

そして白衣の上から使い捨ての帽子、ガウン、手袋にN95マスクという出で立ちで診察に臨みました。

結果的には私の当番では新型コロナウイルス感染症の患者さんは来られなかったのですが、別の日には新型コロナウイルス検査陽性の患者さんが来られたみたいで、その時対応に当たった職員さん達が念の為、検査を受けておられました。

その状況を見て思ったのですが、新型コロナウイルス感染症さんの診察をしている時に自分も感染する事も当然ありうる訳で、もしそうなると私のクリニックは閉鎖になるなあと思いました。

昨年末には私が祝日時々救急外来の仕事をしている奈良県内の病院で新型コロナウイルス院内感染のクラスターが発生し、外来閉鎖になったとの事で、年末年始の私の仕事がキャンセルになりました。民間病院がこういう事になってこの病院も大変だろうと思いが、民間病院がこういう事になってこの病院も大変だろうと思いが、一つの病院で休日の救急外来が閉鎖となれば、救急患者の受け入れ先が少なくなり、必然的に救急患者が行く所がなくなる訳でこれもまた医療崩壊の一端であると思います。

私達開業医の間でも、来院時まず熱を測定し、発熱しておれば診察を拒否する医院もあるみたいで、これもいかなるものかと思えます。



消防士が火災現場で危険承知の上で火中に飛び込んで行く様に、医師は目の前に患者さんが来られれば診察するのは当然の事でしょう。そういう意味からして私の医院では発熱患者さんからの問合せがあったり、直接来院されたとしても決して断わる事もなく、診察するのが責務であると考え、これからもその方針で私は診察していくつもりであります。

院長 西村 幸

大阪府は2月末より新型コロナウイルスのワクチン接種は始まります。日本人の特有の思想からか「回りの様子を見てから接種するかを決める」医療従事者も多いようです。また「実験台のようだ」とネットでは心無い声も上がっているようです。当院では院長の方針にも従い、また全職員がこのコロナ禍を覚悟をもって日々業務を遂行しております。全職員がワクチンを2月末に接種し“うつさないこと”“うつらないこと”も強く心に刻みこれからも丁寧な感染症対策を行います。皆様が健康でこの窮極を乗り越え笑顔で語り合える日を院長はじめ全職員でサポートさせていただきます。体調不良（発熱時）まずお電話でお問合せくださいませ。定期のお薬の処方についてはお電話でも承っております。処方箋のみ受け取りにお越しになってください。

編集後記

思い切って勇気を出してお伝えします

院長はウイスキーボンボンを食べないです(；ω；)

焼酎ボンボンも食べないです(；ω；)

当院は認知症窓口医療機関として患者様のかかりつけ医として、認知症を疑われる患者様の診察や投薬等の日常的な診察と家族指導を行っております。そこで素朴な疑問は「どうしたらかかりつけ医になってもらえるのか」「かかりつけ医を変えたいなあ」と思うときはどうしたら良いでしょうか。まずは患者様のケアマネさんにその旨を伝えましょう。ケアマネさんによっては一緒に患者様と来院していただけます。安心して任せれる“かかりつけ医”を検討ください。「どの先生(医者)が認知症窓口医療機関になっているのか」はお住まいになっている医師会のホームページをご覧ください。

在宅ワークを始めて1番良かったと思う事は通勤時間がなくなりその時間を趣味に費やすことができ毎日充実しています。PDFを読むだけの「配ればいいのに」と思うだけの会議もなくなり自分のペースで仕事ができるので捗ります。また人間関係の悩みはどんな職場でもつきものですが一番解決しにくい悩みとも言えるでしょう。その悩みも大きく減りました。コロナが収束してからも在宅勤務が選べる職場環境であれば自分らしく多様性が認められた生きやすく素晴らしい社会であると思う今日この頃です。